

アジア現代演劇の秀作・話題作が映像で甦る 6カ国の共同制作、コーラン、アジアの女性像など多様なテーマ 片桐はいりほか ゲストを招いたトークも

国際交流基金（ジャパンファウンデーション）では1990年代初頭から、アジアの同時代演劇の紹介と共同制作に力を注ぎ、何本もの秀作を送り出してきました。その中から、共同制作「リア」（1997年初演）、フィリピンのミュージカル「エル・フィリ」（1995年招聘）、ウズベキスタンのイルホム劇場「コーランに倣いて」（2007年招聘）、共同制作「演じる女たち」（2007年初演）の4本を選び、記録映像を上映するとともに、いまそれらの作品に何を見るのかを、ゲストを交えて探る、全4回シリーズのイベントを開催します。

JFIC イベント vol.5

国際交流基金招聘・制作 現代演劇作品記録上映シリーズ 記録映像で見るアジア現代演劇 - 1990年代から2000年代へ

- | | |
|-----|---|
| 第1回 | 2011年3月12日（土）14:00 「リア」
ゲストトーク＝片桐はいり（俳優） |
| 第2回 | 2011年3月19日（土）13:00
「ミュージカル エル・フィリー愛と反逆2部作」
ゲストトーク＝扇田昭彦（演劇評論家） |
| 第3回 | 2011年3月26日（土）14:00
「コーランに倣いて」
解説＝鴻英良（演劇批評、ロシア芸術思想） |
| 第4回 | 2011年4月2日（土）14:00
「演じる女たちーギリシャ悲劇からの断章」
ゲストトーク＝内野儀（東京大学大学院総合文化研究科教授） |



入場無料 | 各回定員70名 | 全作品日本語字幕付き ※開場は開演の30分前

主催 | 国際交流基金

企画監修 | 畠由紀（元国際交流基金 舞台芸術専門員）

会場 | 国際交流基金 JFIC ホール [さくら] (〒160-0004 東京都新宿区四谷 4-4-1)

東京メトロ丸の内線 四谷三丁目駅 1、2番出口より徒歩3分

申込方法 | ウェブ申込フォーム、メール、FAX のいずれかにて、お名前、ご希望日、人数、連絡先をご記入の上、お申込みください。

- ・ウェブ申込フォーム http://www.jpff.go.jp/j/about/jfic/event_s/cmp/110312/index.html
- ・メール ticket@jfic-event.name | FAX 03-5369-6044

お問い合わせ国際交流基金情報センター 三宅、谷地田

TEL: 03-5953-1731 FAX: 03-5369-6044 Email: info@jfic-event.name

〒160-0004 東京都新宿区四谷 4-4-1

www.jpff.go.jp

作品紹介

第1回「リア」

東南アジアでは 80 年代の終わりからポストコロニアル演劇を脱する動きが見られ、90 年代に入るとトランスナショナルに思考しようとする新世代演劇の台頭が見られた。「リア」は、アジアのそうした新世代演劇人と取り組んだ共同制作である。タイトルが示すようにシェークスピアの「リア王」に着想は得ているが、物語は大きく解体され、父王の権威を脱し、その権力を奪取しようとする娘が父殺しをするという物語に再構築され、また、原作には登場しない亡き母という存在を創り出して救済のテーマを盛り込んでいる。能の梅若猶彦がリアと亡き母の 2 役、京劇俳優（男優）の江其虎が長女というように、6 カ国から参加したキャストは言語もバックグラウンドもまったく異なったが、自己の持てるものを解体し、再構築することで物語の構造に呼応しようとした。作品はまる 2 年をかけて完成し、日本の後、東南アジア、豪州、欧州の 7 カ国で上演され、マルチカルチャリズムについて問題を提起する作品として各国で大きな注目を集めた。

第2回「エル・フィリ」

フィリピンの民衆を独立に駆り立てたとされるホセ・リサールの 2 つの原作をミュージカル化した作品。英語の輸入ミュージカルが主流のフィリピンにあって、フィリピン語のオリジナル・ミュージカルとして空前の成功をおさめ、レア・サロンガとともにウエストエンドの「ミス・サイゴン」初演で成功をおさめたモニク・ウィルソンが初のフィリピン語ミュージカルに挑んだことも話題となった。前篇「我にふれるな」では、宗主国スペイン留学から大志を抱いて帰った青年クリソストモ・イバラが、許嫁のマリア・クララ（モニク・ウィルソン）を秘かに慕うスペイン人司祭の陰謀で反逆者に仕立てられ逃走するまでを、後篇「反逆」ではマリア・クララを救うために姿を変えて戻ってきたイバラの反逆者としての生と悲劇的な最期を描く。スペインからの独立前夜という重いテーマを扱いながら、ラヤン・カヤブヤブのドラマチックで重厚な音楽と、主役のイバラを演じるオーディ・ヘモラを始めとする歌手たちの鍛え上げられた歌唱力が、息もつかせぬほどに観客を引き込んでいく。

第3回「コーランに倣いて」

イルホム劇場は、1976 年に演出家マルク・ヴァイルがソ連（当時）のタシケントに設立したソ連初の独立系劇団で、〈インスピレーション〉を意味するイルホムの名はソ連全土ばかりか海外にも知られ、次々と話題作、問題作を発表した。本作品はプーシキンの発禁処分になった詩を題材とし、映像、音楽、ダンスの融合したマルチメディア・パフォーマンスの形を取って、預言者、偽預言者、ナイトクラブの女といった象徴的人物を登場させて、コーランの神学的問題や人間の原罪についてのプーシキンの詩句を読み解いていく。ライブの音楽がすばらしい効果を発揮する。作品は 2 年を費やして制作されたが、その終盤で 9.11 事件が勃発。イスラーム保守派と反イスラーム派両方から攻撃されるが、屈せず初演。ドイツ公演では、「世界に名だたるイルホム劇場が、またもや禁断のテーマに挑んだ。コーランとその思想に息を吹き込むと同時に、コーランの教えを独自のやり方で翻訳してみせた」と評された。しかし、日本公演のわずか半年後、ヴァイルが暴徒によって刺殺されるという悲劇が勃発。BBC によって、保守派による犯行との報が伝えられた。

第4回「演じる女たち」

第 1 部 ウズベキスタン【メディア】 Medea …夫イアソンの理不尽な裏切りへの復讐として我が子を殺すメディア。その行為をオヴリャクリ・ホジャクリは、世界の不調和を断ち切るための社会的行為と捉える。そして、男優にメディアを演じさせることで、解釈をさらに複層的なものにしている。

第 2 部 イラン【イオカステ】 Jocasta …そうと知らずに父を殺害し、母と結婚して王となったオイディプスが、やがて真実を知り、自らの両目を潰す「オイディプス王」が下敷きであるが、モハメド・アゲバティはこれを母と子の悲劇でなく、現代イランの女と男の意識的行為として、〈罪〉と〈タブー〉の問題に静かに、深く分け入っていく。

第 3 部 インド【ヘレネ】 Helen …大神ゼウスの娘にして絶世の美女、ヘレネ。その美貌ゆえにトロイアの王子に連れ去られ、10 年にも及ぶトロイア戦争の元となった女性。アピラシュ・ピライはヘレネを、〈世界戦争を引き起こす石油のような不確かな存在〉、〈見せかけのイデオロギーを備えた約束の地のようなもの〉に例え、今日の権力主義的で暴力的な世界にイメージを引きついでいく。